



【評価の表記方法】 ◎：高度に達成 ○：達成 △：一部達成要改善 ×：未達成

## 1 本校の目標の達成状況

### (1) 学校教育目標

- 基本的な生活習慣、自立と社会参加に向けた育成 ( ○ : 日常生活の指導、キャリア教育等 )
- 豊かな感性と自分を表現する力の育成 ( ◎ : 音楽鑑賞会、笑顔と学び、学習発表会等 )
- 学ぶ意欲、働く意欲・態度、主体性の育成 ( ○ : 興味の喚起、係活動、作業学習等 )
- 仲間を大切にし、共に活動する力の育成 ( ○ : 他害・いじめの防止、集団学習等 )

### (2) 目指す学校像

- 人権を尊重し、一人一人を大切にできる学校 ( △ : ~さん付けの呼称、手のつなぎ方等 )
- 日々の授業を大切に、健康で安全な教育活動 ( ○ : 専門性・授業力の向上、感染症対策、防災教育等 )
- 家庭、地域と連携を深め、信頼される学校 ( ○ : P T A活動、学校間交流、福祉避難所開設訓練等 )

## 2 今年度の中期目標と重点方策の評価

- 人権を尊重した指導による 児童・生徒一人一人の自立と社会参加に向けた力の育成・伸長 ( △ )
  - ・いじめ防止のために、学校いじめ対策委員会を毎週1回開催し、少しでも不穏な動きがあれば、すぐに共有し、組織として迅速に方策を講じたが、保護者からみて取組の様子が不明瞭であるという指摘を受けた。
  - ・児童・生徒の名前の呼び方、手のつなぎ方等について、一部不適切な状況があったことを学校評価等で指摘されており、教員の人権感覚を磨き、適切な対応を徹底していかねばならない。
  - ・自立と社会参加に向けた力の育成では、小学部段階からクラスの係活動等に取り組んでいるが、中学部に教科「職業・家庭」を新設するなどしてキャリア教育を充実させ、保護者にも発信していく必要がある。
- 児童・生徒の実態を把握し、専門性のある指導による一人一人の状況に合わせた指導、課題解決に向けた指導の充実 ( ○ )
  - ・外部専門員を活用し、より確かな実態把握のためのアセスメントを行い、一人一人の状況に応じた教材の作成や授業づくり等に生かした。
  - ・専門性の向上のために、講師として大学や療育機関等から専門家を招き、校内研修を充実させた。
  - ・年次研修の対象教員(1~3年次までで16名)向けに、年間12回の研修プログラムを作成し、専門性や授業力の向上に組織的に取り組んだ。
- 多様化するこれからの社会に対応できる力を育む特別支援教育の推進 ( △ )
  - ・一人一台G I G A端末を活用した授業実践を進めているが、学校評価で保護者から活用の様子が見えにくいという指摘を受けている。(肯定的評価60%) 更なる活用の促進と取組の様子の発信が必要である。
  - ・豊かな心と健やかな身体を育むための障害者スポーツ、芸術教育として、タッチラグビー教室、音楽鑑賞会、笑顔と学びのプロジェクト等を実施した。
- 地域支援・連携・協働の推進、特別支援教育の推進 ( ○ )
  - ・特別支援教育のセンター校として、学校公開、区教育委員会が主催する研修会への講師派遣、小・中学校への出前授業、本校主催の理解推進研修会等を通して、地域支援と理解啓発を進めた。
  - ・地域の小・中学校(浅間台小学校・品川学園)との学校間交流や地域指定校との副籍交流を行い、児童・生徒同士が成長につながる刺激を与え合い、学習の成果が得られた。
  - ・学校運営連絡協議会、福祉避難所開設訓練等を通して、地域の関係諸機関とのつながりを強め、連携・協働を推進した。

### 3 今年度の取組目標と方策の実施状況

#### (1) 学校運営

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	評価
①	計画的に服務事故防止研修を実施し、体罰・不適切な指導、ハラスメント等を根絶する。	各学期1回以上の研修 事故件数 0件	○
②	児童・生徒の呼称の「～くん、～さん」付の徹底などを基本とした、児童・生徒の人権の尊重及び適切な指導の促進	通年、全教職員 不適切指導 0件	△
③	ICT等を活用した教材のデータ化、業務の効率化・ペーパーレス化及びライフ・ワーク・バランスの推進	各会議ペーパーレス化：80% 残業時間平均：45h以下	○
④	一人一人の教職員の業務分担と責任を明確にし、主幹教諭を中心とした業務の進行管理の徹底	学期ごとに進捗管理：主幹報告 課題の確認・明確化：学期ごと	○
⑤	経営企画室と校務分掌、各学部・学年の連携による、課題の明確化及び効果的かつ効率的な学校運営の推進	通年、企画調整会議、経営会議	○
⑥	教職員一人一人の校内外の研修の積極的な受講による、特別支援教育の専門性や業務遂行に係る課題解決力の向上	一人1回以上の研修受講	○
⑦	校内OJT、若手教員育成研修や教育実習、東京教師養成塾、教職大学院との連携等を維持・推進し、特別支援教育を担う人材の組織的育成	通年 一人1回以上の研修	○
⑧	特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育のセンター校としての地域・関係機関への支援活動の拡充、特別支援教育に関するニーズ把握	通年 相談件数：200件	○
⑨	効率的な予算執行、学習環境の整備を進めるとともに、センター執行率の向上を図る	センター執行率：70%以上	△

#### (2) 学習指導

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	評価
①	児童・生徒の障害特性や各種アセスメント結果を指導内容・指導方法に反映する（学習環境の調整、スケジュール）とともに、保護者面談を通し情報を共有	年2回以上	○
②	外部専門員の活用・連携を通して、課題設定、指導内容、指導方法の改善・充実を進める ※専門性向上	累計 年900時間以上 外部専門員活用：1回/人	○
③	オリンピック・パラリンピック教育の五つの育成視点を「学校2020レガシー」として、日本の伝統文化、障害者スポーツ、芸術教育の指導を進める	アートプロジェクト展 総合文化祭、笑顔と学び、音楽鑑賞等	◎
④	基礎体力の向上、体幹機能の向上・安定に向けた運動活動の改善・充実の実施	通年（体育、保健体育） 体育発表会	◎
⑤	GIGAスクール端末を児童・生徒が主体的に活用する授業、家庭での活用を計画・実施し、児童・生徒の課題解決、コミュニケーション能力を育成する	通年（学期ごとに検証）	△
⑥	「子供たちの今を見つめる実態把握と将来を見据えた目標設定を考える～自立活動の基礎・基本を通して～」 知的障害特別支援学校の自立活動についての講義 ○下山 直人 先生(上野学園大学 短期大学部 音楽科 非常勤講師) 6区分の中からニーズの高いもの(身体の動き)の理解を深める ○東恩納 拓也 先生(東京家政大学健康科学部リハビリテーション学科助教)	年11回（校内研究会など）	○
⑦	授業アドバイザーによる授業改善・教材開発に向けた指導・助言	全教員：指導1回/人以上	○
⑧	教材・教具の開発・作成、共有促進のための Teams 内ホルダーへ教材の蓄積	各教科20件以上	○

### (3) 生活指導

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	評価
①	感染症等の防止、事故0のための校内の安全点検、整理整頓、消毒の徹底	通年・随時	○
②	スクールバス運行会社との連携、情報共有の充実による、安全かつ適切な運行の徹底	連絡会：月曜登校時 研修会：年3回以上	○
③	日常生活における挨拶、身だしなみの適切な習慣化に向けた基本的な指導を徹底する	通年（日常生活、生単） （中学部：R7年度「職業・家庭」に向けた取組）	○
④	公共施設や公共交通機関等の利用を通して、社会のルールの指導の計画的実施	各学年 年1回以上	○
⑤	防災対策として品川消防署及び品川警察署、近隣小・中学校、地域関係機関等と連携した防犯・防災及び安全教育を推進する	避難訓練 年11回 中1宿泊防災訓練 年1回 防犯・安全教育 年3回	◎
⑥	迅速なヒヤリハット報告、事例の共有による危機管理意識の向上と改善策の確立	随時（通年）	○
⑦	家庭や関係機関と連携し、日常生活動作（ADL）、基本的な生活習慣を確立する	通年（連絡帳、個別面談）	○
⑧	学校医、医療関係者、保護者と連携し、児童・生徒の心身の健康教育・摂食指導・保健指導を充実させる（心肺蘇生法研修、アレルギー対応研修）	通年：研修会は全員出席	○
⑨	体罰やいじめ根絶・自殺予防教育に向けた会議の実施（情報収集会議を含む）	年50回以上（1回/週）	○
⑩	品川区と連携した福祉避難所の開設訓練	年1回	◎

### (4) 進路指導

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	評価
①	キャリア教育の視点における系統的教育活動の検討・実施、学級指導や係活動の推進、就労に関する理解推進（就労先見学、就業体験、地域清掃活動等の実施）	各学年通年 小5～中2体験等 年1回	○
②	一人一人の生活年齢や状況に応じた、家庭と連携した一人通学指導の推進	通年	○
③	教員・保護者対象の事業所見学会又は講演会等の実施	年1回	○
④	進学先を見通した中学部3年保護者の高等部説明会への参加促進と教員の進路先説明会への参加	港特支・青鳥特支・田園調布特支 各1回以上	◎

### (5) 特別活動・その他

番号	取組目標と具体的方策	数値目標等	評価
①	読み聞かせの会、読書活動を通じたコミュニケーション能力の向上（読書活動、言語活動の充実）	各学年・各学級：通年	○
②	図書室の環境整備、読書活動の推進、新規図書購入及び更新による蔵書の充実 図書ボランティア（PTA）との連携・協力	年100冊以上	◎
③	集団を意識できる学級経営・学級活動の内容整理・工夫を行い、児童・生徒の育成につなげる	計画立案 年3回（学期始め）	○
④	日々の指導の集大成として、全校行事や学年行事等のねらい、内容等を精査する	各学年：3回以上	○
⑤	医療的ケアの全校理解を深めるために、年度始めにパンフレットを配布するとともに、緊急時対応訓練を実施する	パンフ：年1回 訓練：各学期1回	◎
⑥	医療的ケアを要する児童・生徒の適切な管理を徹底・周知するため、医療的ケア安全委員会を実施	委員会年6回以上	○
⑦	学校間交流や副籍事業（副籍交流）等に関する連絡会等の実施	1回以上	○

⑧	学校間交流、社会貢献活動等の社会や地域との関わりをもつ活動や自立と社会参加に向けた取組を学部、学年等の単位で進める	各学年1回以上	○
⑨	特別支援教育コーディネーター等による小・中学校への巡回相談・電話相談等の実施	80件以上	○
⑩	品川区特別支援学級等（スキルアップ研修）への講師派遣（支援部中心）	年3回以上	○
⑪	特別支援教育推進室、通学区域教育委員会及び就学前施設等との連絡会を実施し、適切かつ円滑な就学・転出入相談を進める	通年	○
⑫	地域の相談機関と連携・協力（子ども家庭支援センター、児童相談所、各区福祉課等）し、支援会議を充実させ、児童・生徒の家庭生活・地域生活の充実を図る	年5回以上	◎
⑬	オンライン配信や学校ホームページを使った情報発信・提供を充実させる	HP更新（掲載）：100回以上	○

#### 4 本年度のまとめと次年度方針の要点

##### (1) 本年度のまとめ

- いじめについては、毎週1回の学校いじめ対策委員会の開催、年3回の児童・生徒対象のアンケートの実施、始業式・終業式での校長講話、通年の各学級等での指導などにより発生を防ぐことができた。人権を尊重した指導を学校経営計画に掲げているが、一部適切ではない指導があり、人権感覚を磨いていくことが課題である。自立と社会参加に向けた力の育成のため、係活動の推進や教科の新設等によりキャリア教育を充実させていく必要がある。また、これらの取組の様子が保護者から見えにくい面があり、分かりやすい説明や発信が求められている。
- 児童・生徒一人一人に合わせた指導を行うために、外部専門員を活用し、アセスメント等による正確な実態把握に努めた。大学や療育機関等の専門家を講師とする校内研修を充実させ、教員の専門性向上を図った。若手教員の割合が多くなっているが、年間研修計画（全12回）を明確に立て、管理職、主幹教諭、主任教諭等による組織的な育成に取り組んだ。
- これからの社会に対応できる力の育成のために、児童・生徒が一人一台GIGA端末を授業等で活用する取組を進めているが、今後更なる活用の促進と、保護者への情報発信の工夫が必要である。障害者スポーツ、芸術教育の充実を図り、タッチラグビー教室、音楽鑑賞会、笑顔と学びのプロジェクト等を実施したことで、児童・生徒の豊かな心と健やかな身体の育成において成果が得られた。
- 特別支援教育のセンター校として地域支援と理解啓発を進めるために、コーディネーター等が地域の小・中学校への巡回相談、出前授業、区教育委員会主催の研修会等に協力するとともに、本校で理解推進研修会を開催し、80名を超える参加を得ることができた。浅間台小学校・品川学園との学校間交流では、児童・生徒たちが同じ地域で学ぶ仲間たちの存在を知り、新鮮な気持ちで視野を広げることができた。
- 教育課程の編成では、国と都からの指導を踏まえ、授業時数を標準時数に近づけていく。令和7年度は小学部1年生の2便下校をなくす部分のみの変更を行うが、令和8年度に向けて、時数を減らす授業や時間割等について検討を進め、適時、保護者、スクールバス会社、放課後等デイサービス事業者等に丁寧な説明をしていく必要がある。

##### (2) 次年度方針の要点

###### ○ 人権を尊重した指導の徹底

- ・ いじめ、体罰、性暴力防止の取組と保護者への発信
- ・ 児童・生徒の尊厳を意識した呼称の仕方や接し方等の徹底
- ・ 研修等による教職員の人権感覚の涵養

○ **自立と社会参加に向けた力の育成促進**

- ・キャリア教育の充実
- ・小学部低学年からの係活動等の更なる充実
- ・中学部での教科「職業・家庭」の新設と指導実践
- ・電車乗車や買い物等の体験学習の充実

○ **専門性に基づく個に応じた指導**

- ・校内研修の充実、外部専門員の活用等による専門性の向上
- ・年次研の教員を対象とした計画的な研修、組織的な育成
- ・研修センターの専門性向上研修等の更なる活用

○ **安全・安心で健康な教育活動の推進**

- ・首都直下地震を想定した防災訓練、不審者対応訓練等の更なる充実
- ・コロナ、インフル、嘔吐・下痢等の感染症への対策
- ・医療的ケアの安全な実施、緊急時対応訓練等による対応の円滑化
- ・新規配置スクールカウンセラーを活用した心理的ケア

○ **これからの社会に対応できる力の育成促進**

- ・一人一台G I G A端末の更なる活用と保護者への発信
- ・情報モラル、ネット詐欺等についての授業実践（「職業・家庭」等）
- ・将来の余暇活動を見据えた障害者スポーツ、芸術鑑賞等の体験

○ **地域支援・連携・協働・理解啓発の推進**

- ・支援部教員、コーディネーターによる区教育委員会、地域の小・中学校等への支援
- ・学校公開、理解推進研修会等による理解啓発
- ・地域との連携・協働による学校間交流、副籍交流等の充実

○ **国・都からの指導を踏まえた教育課程の編成**

- ・教育課程検討委員会の設置による組織的・計画的な検討
- ・令和8年度に向け、標準時数を踏まえた授業時数の設定、時間割等の検討と保護者等への適時の発信
- ・2便下校から1便下校への切換えにより確保できる職務遂行時間の有効活用